

転換期における労働組合の役割 ～リーダーよ、一步前へ～ 第23回 労働トップフォーラム

連合近畿地方ブロック連絡会と関西生産性本部の共催事業として6月9日（土）大阪オーバルホールで380名の参加のもと第23回労働トップフォーラムが開催され、連合滋賀からも30名が参加しました。

基調講演では、北川正恭早稲田大学大学院公営経営研究科教授から、「今後の日本の行方」と題して、「大震災からの復興に加え、少子高齢化、大幅な財政赤字、円高、デフレ経済等様々な課題が山積している中、社会保障と税の一体改革など日本は大きな転換期を迎えている。労働運動、生産性運動が果たすべき役割は大きい」と進むべき道筋のご示唆と叱咤激励をいただきました。

また、労働組合の専従として11年間の執行委員長長の経歴を持ち、現在は経営トップの立場となっておられる株式会社高島屋鈴木弘治取締役社長からは、自らの経験を踏まえたうえで経営者としての立場から日本経

済の低迷下における労働組合の役割、期待について話をされました

さらに、スポーツジャーナリストで株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役二宮清純氏からは、スポーツ界における記録や感動の背景には、監督やコーチなどによる「リーダーシップ」や「勝利を目指すメンタリティー」について、野球やサッカーなどのスポーツ選手を紹介されながら講話をいただきました。

今回は、非常に多角的・多面的な示唆に富んだフォーラムとなり今後の活動に大いに活かしていけるものと感じました。

直面する課題について意見交換 県内国会議員からの国政報告

連合滋賀は、連合の理念と政策実現に向け、民主党との連携を図りながら、諸活動に取り組んでいます。今後においても、国会における議論や政権運営にかかると的確な情報収集と共通認識を深めることが重要です。

5月25日に連合滋賀執行委員会の終了後に、田島一成衆議院議員から当面する国政の課題について報告を受け、意見交換を行いました。

意見交換会では、田島一成衆議院議員から、「社会保障と税の一体改革」、「今夏の電力不足問題」を中心に報告がされました。また、徳永久志参議院議員、林久美子参議院議員も参加され、それぞれの立場での情勢報告とこれまでの実績の紹介がされました。

第180回通常国会は、9月8日まで延長されましたが、「衆参の1票の格差問題」や「特例公債法案」など重要課題は山積しています。



現下の情勢は、民主党の政権運営に対して、世論の評価は高くなく、むしろ批判、不満、不信の声がマスコミを通じて流布されています。

連合滋賀は、今後の情勢や課題に対して、随時、県内衆参国会議員等からの国政報告、情勢報告を受け、連合滋賀の政治理念・方針に基づいた活動を展開していきます。



連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2012年6月28日
連合滋賀 第233号
大津市松本2丁目10-6
電話077-523-0500
発行・山田 清
編集・上田 薫
(定価 1部6円)
印刷 ヌメディア株式会社

仕事と介護の両立のために労働組合ができること 男女平等月間 学習会を開催

6月26日（火）草津市立市民交流プラザにおいて、連合滋賀男女平等推進委員会・女性委員会・青年委員会主催で、6月の男女平等月間にあわせ学習会を開催しました。学習会には、女性・青年委員会を中心に53人が参加し、「仕事と介護の両立」について介護の実態や介護保険制度などについて学習しました。

学習会では、連合本部中島圭子総合男女平等局長を講師に「仕事と介護の両立」について講演をいただきました。

『少子高齢化が進み、人口構造が急速に変化しており、合計特殊出生率は、1.39、2055年頃までに生産年齢人口が4割減少し高齢者人口が2割増加する。高齢化が進行していくなかで、税や社会保険料、消費の担い手の拡大が必要であり、女性就業率の向上が不可欠となっている。また、家族の介護・看護を理由とした離職者数も増加しており管理職を含む40～50歳代の介護離職は人材マネジメント上のリスク要因となっており、さらに、労働者の立場からも、介護期間が長期化すれば、介護終了後に安定した雇用機会を得ることも難しくなっている。大介護時代の到来に備えて、仕事と介護の両立を可能とする社会・職場を実現するために、「介護に関するニーズの把握」「介護保険制度や社内制度の情報提供」「女性の長期的キャリア支援」など企業に求めていくことが重要である。』と提言されました。

また、『2010年6月に「改正育児・介護休業法」が施行されたが、その内容について、周知されていないように見受けられる。対象労働者や手続き、期間、所



定労働時間の短縮措置や深夜業の制限など休業制度・介護休暇にかかわる啓発などをしていく必要がある。介護保険制度のしくみについても同様で、要介護者が急増し、よりよい介護サービスを受けるためにも「地域包括ケアシステム」の実現めざし、医療と介護の連携の強化、高齢者の「住まい」についても整備する必要がある。さらに介護サービス従事者が不足するなかで介護職・ヘルパーの処遇改善や産業育成が必要である。』との問題提起と、『このようななかで、労働組合にできることは、介護休業給付の拡大や休業期間中の社会保険料掛け金免除などの「介護休業法」の改正や高齢者の福祉・介護・医療の充実に向けた「地域包括支援センター」の機能強化など「政策・制度の取り組み」や介護情報の周知や介護休業取得後の職場復帰支援など取得しやすい環境を整えていくことが大切である。』と提起されました。

介護を行う女性の労働者がまだまだ多いなか、仕事と介護を両立するための課題を共有し取り組んでいきます。



2012「標語・川柳」入賞作品決まる

メーデーを皮切りに組合員の皆さんから男女平等参画にかかる「標語・川柳」を募集しました。今年は122点の応募をいただき、男女平等推進委員会などで構成する審査委員会での審査の結果、最優秀賞、優秀賞が決定しました。ご応募いただきました皆様ありがとうございました。

最優秀作品

支えあい 家族も職場も 良い関係

野洲市職員労働組合

四谷 涼さん

優秀作品 (2点)

☆やってみて初めて気付く 育児の喜び ☆オンとオフ上手に切り替え 充実ライフ

東レ労組滋賀支部

竹内 真也さん

ダイハツ労働組合竜王第1支部

宮野 涼太さん

《みんなでなくそう！ 職場のパワーハラスメント》

いま、職場のいじめ・嫌がらせが、社会的な問題として顕在化してきています。厚生労働省では、これらの行為を「職場のパワーハラスメント」と呼んで、社会に注意を喚起し、この問題の予防・解決に取り組むことを訴える「提言」を取りまとめました。企業や労働組合は、職場のパワーハラスメント対策に取り組みしましょう。また、職場で働く一人ひとりの皆さまも、自分たちの職場を見つめ直し、互いに話し合うことから始めましょう。「提言」の内容や取組事例などを厚生労働省のホームページで紹介しています。

厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/index.html>

連合滋賀の日 彦根駅で街頭行動

毎月5日を軸に、地域協議会を持ち回り、駅頭等で「連合滋賀の日」を周知するため、6月5日に、彦根駅で行い、連合滋賀の組織拡大、政策・制度等をアピールしました。

今回は、彦根駅前で江畑弥八郎県議会議員、安藤博・矢吹安子彦根市議会議員に参加いただき、県議会、市議会での活動報告と連合滋賀のはたらく仲間や市民声を県政や市政に反映させていくと訴えました。



91.3 kgの外来魚を駆除し、琵琶湖の生態系を保護 第22回びわ湖クリーンフィッシング大会

連合滋賀青年委員会は、6月16日(土)琵琶湖岸8会場で、恒例の「びわ湖クリーンフィッシング大会」を開催しました。この大会は「環境保全」と「生態系保護」を目的とした外来魚駆除の釣り大会で、8会場の外来魚総重量は91.3 kgでした。

1990年の第1回大会より、今年で22回目となりました。昨年と同様、朝からの激しい雨の中での開催となりましたが、5年前からの、釣り竿の貸出や、エサの用意が定着してきたのか、雨模様を着た子どもたちが家族で参加をしていただき、雨模様も関係なく釣りを楽しんでくれました。参加者が、昨年より少し減ったことに伴い、釣果も昨年より、20kgほど少なくなったとはいえ、それでも90kgを超える外来魚の駆除ができました。

外来魚がまだまだ琵琶湖には多いという現状を目の当たりにし、琵琶湖の環境についてあらためて考えさせられました。



今年も、滋賀県水産試験場にご協力をいただき、「ニゴロブナ」の稚魚の放流」を各会場で行いました。

琵琶湖に昔から住んでいる「在来魚」と駆除される「外来魚」について、子どもたちに釣りを楽しんでもらいながら、親子で琵琶湖の生態系について考え、知識を深めてもらえればと感じました。

また、釣りだけでなく、会場周辺のゴミ拾いにも協力いただき、釣りのマナーや琵琶湖の環境についても考えていただければ幸いです。

今年は参加者全員に、環境豆知識のイラスト入りのトイレトペーパーなどをお渡ししました。

竹山町長 再選果たす！ 竜王町長選挙

6月12日告示、17日投票で執行されました竜王町長選挙は開票の結果、連合滋賀推薦の「竹山秀雄」候補が激戦を制し、再選を果たしました。

ご奮闘いただきました構成組織、地域協議会をはじめとする関係者の皆様にご感謝申し上げます。

竹山 秀雄 3,301票(当選)
杼木 捨蔵 2,902票

